

# お知らせ FROM 雑賀幼稚園

R6年2月



2/2  
(金)

## 節分集会



鬼の面も多用性の時代

「福は内、鬼は外」子どもたちと家族の皆様、雑賀幼稚園、皆様に福を。世の中には退治しないといけない鬼があちこちにいるようです。

## いい鬼は～うち～



絵本にはいろいろな鬼が出てきます。心やさしい、いい鬼も多く登場します。

「おには～そと～！」 「いい、おには～うち～！」  
「え？ふくは～うち～！でしょ、えんちょうせんせい」  
「いいおにって、そなん、いるの？」  
「はい、います。きつといます。ほんとはおにも、わたしたちとなかよくしたいのかもしれませんが。いっしょに、あそびたいのかもしれませんが」

絵本 「おにはうち！」 (中川ひろたか 童心社) より



## 子どもたちの作品



松江市保育所(園)・幼稚園造形展が1月末、県立美術館で開かれました。雑賀幼稚園の子どもたちは、宝島をめざす海賊船や波を表現しました。(中央幼稚園と共同制作)



いざ 宝島へ出航!

2/14  
(水)

## 交通安全教室を行いました

白鳥クラブ主催。はじめに全員で、絵本を使って交通ルールの確認、「はあのお約束(走らない・遊ばない・飛び出さない)」、横断練習。その後年長組は傘の使い方を学び、通学路で傘をさして歩く練習をしました。



## 城下町の また行きたい図書館

山形駅から普通列車に乗って50分。小雨の降る米沢駅に降り立ちました。人口8万の城下町は静かに私を迎えてくれました。駅から歩くこと30分、上杉神社へ。上杉謙信や上杉鷹山など、歴史に思いを馳せながら散策。神社から街中の複合施設へ。この町にある市立米沢図書館を訪ねるのが旅の目的の一つでした。

1階の市民ギャラリーから広い階段を上がり2階の図書館へ。圧巻の光景に目を奪われました。その広さと共に天井の高さが際立ちます。吹き抜けの3階から5階の3方向の壁にも多くの本が。「上に行けますか」と尋ねると「3階から上は壁面書庫になっており入ることができません」との返事でした。

壁面書庫には、15万冊の本が鎮座します。閲覧できる15万冊と合わせて30万冊。読書や学習スペースも十分すぎるくらいありました。

サッカーコート1面分の本に囲まれた空間。城下町の開放的かつ静寂な図書館に魅了されました。





# Coffee Break



テレビで棟上げの餅まきを見て、小学生の頃を思い出しました。近所で餅まきがあるとよく行ったものです。帽子で受けたりエプロンを広げて受けたり、様々な光景が繰り広げられます。落ちた餅に猪突猛進。もうこれはラグビーのタックル以上の激しさ。よく怪我人がでなかったと思います。

親戚の棟上げの時は、まく体験をしました。骨組みだけの家。急な梯子をおそるおそる上る。床板が敷かれただけの2階からはいつもと違う風景が広がります。両隣の人には、お金が入った大きな餅が家主から投げられる。他の人が取ることはけっしてない。そんなことも知りました。

2階に上がり餅まきができるのは男性だけ。これも記憶の中にあります。

